

ゲートボールで交流

6月15日、「いいたてスポーツ公園」で、『南相馬 飯館親善ゲートボール大会』が開かれました。主催した村ゲートボール協会の佐藤昇会長（草野）は「避難先で健康づくりに協力していただいた。避難を続ける村民も皆一緒の交流です」と笑顔。南相馬市小高区の佐藤榮さんは自身の避難も振り返りながら「やはり楽しいものです」と仲間プレーに目を細めていました。



はつらつと熱戦を繰り広げた参加者の皆さん

定岡さんの動画を国連機関が採用



自社の「Sky UPの杜（スカイアップのもり）」でドローン空撮を行っている定岡忠臣さん（深谷）。ユーチューブで公開していた阿部勝男さん（佐須）のヒマワリ畑の動画が、なんと国連の専門機関「世界気象機関」制作の動画に採用されました。「連絡をもらった時には驚きました」と定岡さん。「ぜひ村の風景を」と無料で提供したそうです。「気象衛星調整会議」50周年記念動画の冒頭に、定岡さん撮影の村の風景が映し出されます。

視聴はこちらから (YouTube)

はなれていても

大渡正子さん（草野 福島県南相馬市在住）



県道を登って村に入ると、空気がくっつと変わる感じがします。戻って来るとせいせいで済みますよ。先日ある男性が「避難先で初めて上がったのがつせと接待を受けた」とうれしそうに話していました。震災から11年、避難者への「拒み」を心配して過ごしてきたということなんですよ。

歩いた停電の夜。ただただ怖くて辛かった。その頃とはにかく必死で、訳が分からなかった。私は福島市に避難し、そこから村に通勤しました。ずっと泣くことすらできませんでした。かなり時が経って福島で田植えの風景を見た時に、飯館の田んぼを思っ初めて泣きました。今は思い出すだけでも涙が出ます。

民生委員として避難中からあちこちのお茶会に行きました。行けば皆の顔が見られて先輩の話も聞ける。いろいろな地区の人とも知り合いました。今はサポートセンター「つながつぺ」のボランティアにも行きますが、人と人が思い合ういろいろな場面に出会います。準備する人は大変ですが、お茶会や同窓会などもできるだけ開いていただきたい。つながりが大切だと思います。震災前は組の付き合いでもいろいろ教わっていただきました。柏餅やフキのこしらえ方の家々の違いを話したり教え合ったりもしました。また、季節ごとに山の物や、農家の方にいただくおいしい野菜を味わいました。お金では買えない贅沢をしていたと実感します。そうした村のよさを何とか残していきたいですね。

道の駅では他にも新しいメニューが日々登場!



飯館の味! 道の駅の「エゴマそば」

「いいたて村の道の駅までい館」レストランの「エゴマそば」はいかがですか。「いいたて愚真会」の冷たい手打ち蕎麦を、「いいたて結い農園」のエゴマを使った温かなつゆで味わいます。蕎麦のトッピングのエゴマもプチプチと新食感。手打ちのため数量限定で提供しています。



メニューを開発! 厨房主任 佐久間昌樹さん



笑顔満開! 「テニス教室」

6月19日、「いいたてスポーツ公園」で、村教育委員会・村公民館主催のテニス教室が開かれました。講師は、佐久間光弘先生と村役場テニスクラブが務めました。この日の教室には24人が参加しました。硬式・軟式のグループに分かれて技術指導を受け、和気あいあいと試合も楽しみました。

交流センター「ふれ愛館」だより

おすすめ図書を紹介! します



「2000平方メートルの世界で」 (小学館) 文：前田海音 絵：はたこうしろう  
脳神経の病気を患う9歳の少女が病院の中のベッドの上で気づいたことや感じたことが描かれていて、生きていくことのすばらしさ、本当に大切なことを考えさせられます。「ひとりじゃない」というメッセージは身近ところにあるのかもしれない。



「しりとり」 (福音館書店) 作：安野光雅 ページをめくって絵をたどりながらしりとりができるしりとり絵本。やさしくどこか懐かしい絵を見て心がほっこりします。文字が読めなくても絵を見ながら、お子さん、お孫さんと楽しくしりとりができる1冊。



「新型コロナウイルスのサバイバル」 (朝日新聞出版) 1・2 作：コムドリコ、イラスト：韓賢東  
新型コロナウイルス以外のウイルスについても勉強できる科学漫画。ウイルスって何? ウイルスに負けないためにはどうすればいいの? など、楽しく学びながら読むことができます。サバイバルシリーズの本は、他にもありますので、ぜひ読んでみてください。